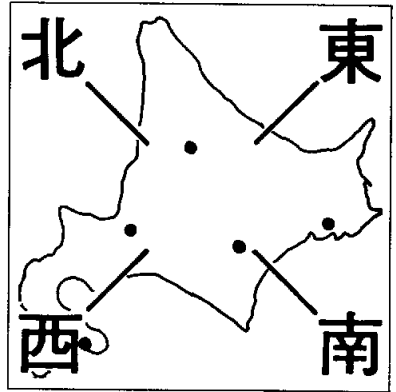


NC HOKKAIDO



冬の木

写真：水口文雄



藻琴山のスキー場 問題について

中西 和典

「藻琴山の自然を守る会」



私達の村東藻琴では、八年程前から村が東急グループに対し、スキー場の誘致運動を続けてきた。当初は、藻琴山の北西斜面に位置する「藻琴山国設

スキー場」を拡張改良して使用するというものだったが、ゲレンデの斜度が緩く単調でスキー場としての魅力がななく集客能力が低いとの理由で、二年前から北斜面（通称ゴボウ沢）が替わりの予定地として決定され、第三セクター方式によるスキー場建設計画が具体的になり現在に至っている。

この予定地は多くの問題を抱えている。まず、沢の源頭部は阿寒国立公園内であり、屈斜路湖を囲む外輪山を構成する重要な森林地帯である事。そしてその流域部に広がる森は自然休養林として親しまれている所で、なおかつ今まで一度も人手を加えられた事のないトドマツ、エゾマツなどの針葉樹主体の残り少ない自然林である事。又、ゴボウ沢は藻琴川水系に属しているため、下流のシジミの養殖で知られる藻琴湖の源流地域である事。さらに、天然記念物のクマガラヤ高山性のホシガラス、ギンザンマシコなどの鳥類や、エゾシカ、ヒグマ、テンなどの多様な動物の生息地である事などが問題点として挙げられる。この予定地からして一町村が単に「活性化」という名目のために、国民の財産である国立公園にレジャー施設を建設する事は決して認められるものではなく、なおかつ、広大な森林伐採を行ない、周囲の気候や地形を変え、水資源の枯渇や土砂の流出などを及ぼし、下流住民まで巻き込

む自然破壊を起こすことは明白である。

この計画に合わせたように、今年の三月下旬まで国立公園の第一種特別地域であった源頭部が第二種特別地域に格下げになり、流域部のゴボウ沢まで新しく林道が作られたりしているが、当の村民に対しては何の説明もなくただ漠然と「村にスキー場が出来る、いい事だ」としか理解されていない。我々はこれらの事柄を考え合わせ、この予定地でのスキー場建設は是が非でも止めさせなければならぬと強く決意、六十二年八月四日に会を設立し、活動を始めた。その動きのために、九月の臨時村議会で当初五百万円程度だった環境アセスメントの調査予算が、千五百万円に増額された。この事は、会の存在に対し村が恐れを抱くと共に、文句のつけようのないアセスメント調査を行なうためと考えられる。その後数回に亘り調査が行なわれているようだが、その実態はつかめていない。

近年道内では地方の活性化という理由で、貴重な自然が無暴なレジャー施設計画により次々と踏みにじられていくが、安易な経済性と効率のみを優先させた「活性化」が、はたして豊かな未来を約束させるものとはどうしても考えられない。

このように、道東の小さな村でも同じような問題が、進みつつあるのである。（東藻琴村在住）

緑のキャンペーンと 山岳ゴルフ場

松井 覺進

「新聞記者」



いまから四半世紀前、雪印乳業会長佐藤貢さん（現・相談役）を札幌市の自宅に訪ねたことがある。雪印の青いカップ入りアイスクリームをふるまわれた。家のたたずまいといい、質実な生活にみうけた。健康法に話がおよんだ時、佐藤さんは「ゴルフをしています。しらすしらすに五キロは歩いてしまふ。（ゼイタクと思われるかもしれないが）年寄りにはいいスポーツです」といった。

そのころはまだ、ゴルフは今日ほど大衆化していなかった。以来、私は、ゴルフは老人向きスポーツなんだな、と思っている。

十数年前のことだ。静岡県三島市の富士山麓の森林を伐採し、ゴルフ場を

二カ所造成する計画がもちあがった。三島市の全面積に占める森林面積の比率が目立って低下するほど大規模な計画だった。小麦の研究で知られる木原均博士や、三島市にある国立遺伝学研究所の所員が「生態系が破壊される」と反対した。木原博士らは詳しい調査報告書を作成した。造成計画は頓挫した。ところが今、一度は救われた大森林が東京湾観光という会社の手によってゴルフ場に変貌している。富士山が眼前にそびえ風光明媚。会員権は五倍に急騰して三千万円以上になっている。

栃木県真岡市では、山の森林を切り倒してゴルフ場を造成中に、山頂にできた人工の池が決壊し、作業員五人が泥水に飲まれて死んだことがある。その前年、やはり池の決壊で、山麓の青々と稲の育った水田を泥が埋めるといふ事故があったのに、同じ愚を繰り返したのである。

日本には、このような山岳ゴルフ場が非常に多い。イギリスのゴルフ場の大半が、自然の地形を利用したものであるのと対照的である。太古からの起伏や池や草がそのまま残っていて、イギリス人は、コースの半分だけプレーして海辺に行き、弁当を広げてピクニックにしてしまう。接待とか豪華商品争奪とか会社の上下関係を延長したような、どこかの国の金満ゴルフは、スポーツ本来の遊びの精神を失っている。

貧乏くさくてあずましくない（気持よくない）。

もし本当に自然が大事だと思ふなら森林破壊の山岳ゴルフ場ではプレーできないはずである。ところが不思議なことに、緑のキャンペーンに同調し、書いたり話したりしている知名人たちが、山岳ゴルフ場で平然とクラブを振っている。ゴルフ場造成を奨励した銀行の首脳が緑の保護をとなえている。本音と建前の使い分け。これら知名人の本音と建前を見分けることは、案外おもしろいゲームである。

山岳ゴルフ場の造成は、富士山麓の例でもわかるように、とうの昔に限度を超えている。そこでプレーをする人がいるから、森林が次々と消えていくのだ。（東京都小平市在住）

礼文島から

A氏へ

大山 明

「北海道礼文高等学校」



拝啓 親しいA様

この前お会いして以来、お便りも差し上げず礼を欠いてまいりました。お赦し下さい。グロバルに観れば、特に申し上げることのない島ですが、三年と八カ月も住んでおりますと、また特別の感慨が湧いてまいります。西高東低の気圧配置になりますと、風が巻きゆき、雪は家に張り着き、壮絶とも言える自然の形象を残していくのです。

ただ、この気候の厳しさ故に、わたしは自然と人間の関りの意味を考えさせられるのです。昨年暮れ放映されたNHK特集ドラマ『礼文島』をご覧いただけでしょうか。制作上のいろいろな苦勞があったと、間接的には聞いておりますが、わたしには大いに不満でした。率直に言って、期待が大きかっただけに、落胆の気持ちも否定できません。賢明なA氏に厳冬のこの島を訪れていただき、現実と真実を識って下さい、と願う次第です。

この秋も深まる頃、この島の自然・文化・生活の歴史の勉強の一端にと願う、仲間四人とお寺と墓地を巡りました。ある西海岸の小さな墓地で、「孤舟海了」と刻まれたお墓に出逢いました。それは、戒名なのか、別のものなのか定かではありません。しかし、わたしはこの古い四文字の刻みに深い感動を覚えました。中生代白亜紀に遡る地史の島と海に生き、孤の実存を意識し、

舟を漕ぎ、海に人生を了えたと悟った人の情念を勝手に読み取ってしまいました。石油暖房と電気炊飯器で暮らしているわたしには想像を超える、壮絶な人生とその観を見たような気がしたのです。

ところで、この夏、島に悲しみと怒りを覚える事件が起こりました。ご存知かと思いますが、固有種のレブニアツモリソウが、一夜のうちに三二八株（推定）盗掘されたのです。保護に心血を注いでこられた方々はもちろん、わたしにも大変な衝撃でした。町の文化財保護委員の一人として、ひとつの意見を用意していた矢先だっただけに、切ない気持でした。パラ線のない保護区を理想と悲願しつづけてきたわたしは、後は「孤舟海了」の志をあらためて考えさせられる次第となったのです。四つの氷河期を生き、進化（変異）の過程を経ているレブニアツモリソウの生命の意味を、賢明なるA氏なれば、多くの方々に語り、広く深く理解を求めていただけるものと信じます。わたしはわたしなりに、この悲しい事実を語り「自然保護」の真理を探りつづける所存です。ご教示、この上もお与え下さい。とりあえず、お便りといいたします。

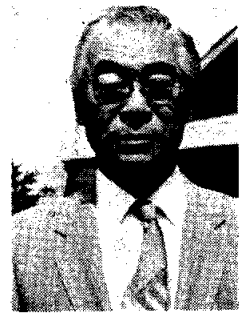
敬具

（礼文町在住）

知床国立公園内に於ける

伐採の経過と現状と展望について

知床自然保護協会会長 石井 政之



1 伐採計画と経過

知床国立公園内の伐採計画が最初に出されたのは、昭和五十六年の網走第四次施業計画によってである。その内容は、一三〇〇haの森林から択伐により五三〇〇〇m³のトドマツ、エゾマツ、ナラ、ニレ等を伐り出すというものであった。この計画は、本会の反対等によって昭和五十七年九月に事実上中止された。今回の計画は昭和六十一年からの網走第五次施業計画として再びもりこまれたもので、羅臼岳から硫黄山にかけての山麓一七〇〇haから、十年

間に約一万本(二万m³)を伐採する

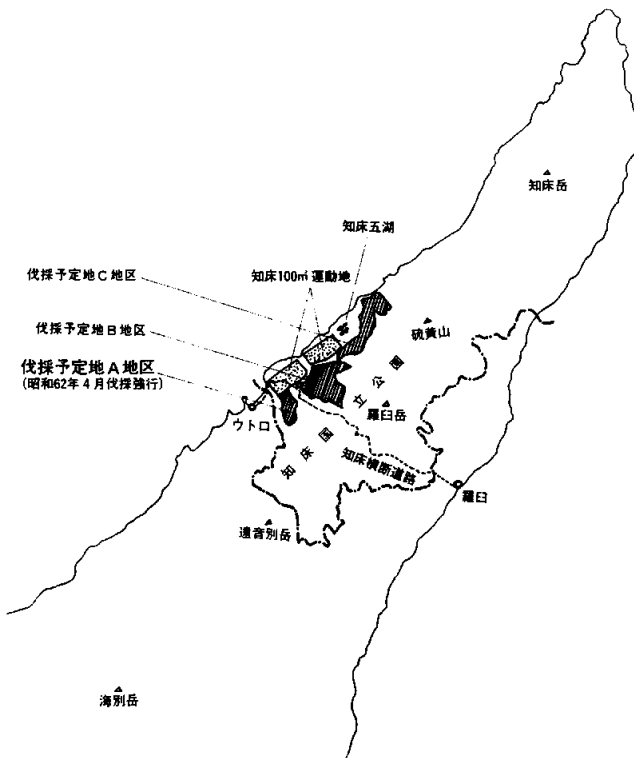
ものである。極めて弱度の伐採とか、ヘリ集材により自然破壊は少いとか、森林の若返りのためとかいう営林署側の言分であるが当協会としては問題点は極めて多く、知床国立公園の原生自然を著しく損い、シマフクロウに到っては、壊滅的打撃であり、一月二十八日要望書を林野当局に提出し、伐採反対に立上った。その後、日本自然保護協会、北海道自然保護協会、北海道自然保護連合等も反対に向けて運動を開始した。

2 知床国立公園指定の原点

知床が国立公園候補地になったのは昭和三十六年十二月である。日本経済の高度成長ブームにより観光開発が急速に進んだ。当時の自然公園審議会は知床半島の原生的自然に高い評価を与え、国立公園候補地として答申し観光開発から守った経過がある。これは全国立公園指定の経過からして極めて異例の措置と言える。自然保護の姿勢を明確に打出して指定されたのである。この「原生的景観保全」という国立公園指定の原点は、知床国立公園のあり方の基本方針として、改めて再確認されなければならない。

3 知床国立公園の学術的価値

知床の価値は高度な原始性にある。半島成生以来二〇〇〇万年もの長い間、人を寄せつけなかった厳しい地形と気象条件、そこに繁茂する原生の植生の中で、多くの野生鳥獣が自然本来の営みを続けている。知床は海とそこに生息する魚貝類、海獣、海岸に棲む海鳥、二二三〇種を越す鳥類、山裾に点在する湖沼と原生的自然林と、そこを生活圏としているヒグマ、シマフクロウ、見事な景観をおりなす滝、河川、湖沼の水源となる伏流水の源である知床連山、そこに棲む動植物の食物連鎖等、これ等が一体となって原生的生態系を維持しており、これ等を厳正に保護し末永く後世に残すべき地域である。



4 知床一〇〇平方米運動

昭和五十一年二月から開始された知床一〇〇平方米運動は、国立公園審議会の方針にしたがい、前斜里町長藤谷豊氏の発想により発足した。還暦、喜寿、米寿を記念し、或は誕生、死別の姓名保全等を含め、三万近い参加者が三億以上の資金を拠出し壮大なロマンを集めている。

この人達の運動への参加の動機は、日本から失われた緑と自然への郷愁であり、知床の大自然を個人参加で守りたいという愛情であり、自然復帰の夢を託した運動である。それに隣接して原生的環境が維持されている国有林を伐採し、自然環境を破壊することは、国民の努力を無にするものである。

5 伐採地の現状

昭和六十二年四月十四日、百名近い機動隊の厳重な警備の中でA地区の伐採は強行された。四月十三日施業計画着手の発表、其の翌日の強行である。支障木平均四本を含め二千六百六十本の伐採である。伐採率一加当り十一本である。ヘリコプターによる回収率は調査の結果約五分の一であり、伐採木の殆んどが知床の奥深く放置された。枝条の整理、ポット苗の植付等も、限られた一部の地域にすぎない現状は、営林署自体がその後の処理、今後の管理の至難さを証明したと言えよう。原始、原生林を林業のため伐つてはならない。

そこには人間を含めたあらゆる生物の生命保全のメカニズムが秘められている。

6 保護と利用の整合性

自然環境保全基本方針は「自然環境の保全を図るためには、国民一人一人が保護、保全の精神を身につけ、これを習性とするのが何より肝要である。このため学校や地域社会において環境教育を積極的に推進し、自然のメカニズムや人間と自然との正しい関係について国民の理解を深め、自然に対する愛情とモラルの育成に努める」と自然保護教育の重要性を確認している。このような自然保護教育は、当面次の事項を配慮しつつ実施されなければならないと考える。

1 身近な自然を大切に保護する。

2 学校教育の場で、総合的、系統的

3 野外活動等自然に触れる場での自然保護教育を重視すること。

4 自然保護教育の指導者の養成。

5 地域社会の人々や環境保護団体の

6 各種公報等において、自然ないし

7 自然保護に関する情報を提供するな

8 自然保護教育の材料とする。

9 自然公園等の利用に際して、利用

者に対する自然保護教育を行う。

10 以上を推進するため、当協会は斜里

町が計画した「知床国立公園ホロベツ

園地計画」を基本的に認めた。建設条

件、内容、運営について厳しい条件を

町に要望しており、今後計画の実行状

況を厳重にチェックし、真に自然保護

教育の場として活用されるよう斜里町

と共に努めたい。また斜里町独自の自

然観察指導員の養成確保等も当協会の

私案として、実現を期する方向で対応

してゆきたい。

8 自然保護と林業

自然公園、各種保安林、耕地防風林等は林業を営む場ではない。一般国有林に於て森林の公益的機能を優先させた林業こそが、一般会計で支える意味が大きい。知床問題を通じて異論がとびかき、地域住民や国民は迷い悩んだ者も多い。知床の保護や利用に関する様々な意見や提案も各方面から出された。其の中で六十二年十月に日本弁護士連合会が出した「知床国有林の自然保護に関する意見書」は、自然保護団体や知床の自然を愛する多くの国民の意見を取り入れたものとして高く評価したい。今後は道内、国内の多くの地方の協力を得ながら知床の原生自然を末永く守り通す決意を固め、知床問題を通じて、多くの団体、学者、個人の方々の御指導、御支援、御協力に対し、知床自然保護協会として敬意と信頼を寄せると共に深甚なる感謝を申し上げますものである。

(斜里町在住)

会誌バックナンバー頒布のご案内

当協会の会誌も一九六六年に第一号が発行されて以来、昭和六十一年度現在で第二十六号になりました。当協会誌は会機関誌としてのみならず、広く自然環境、自然保護に関する普及書として、関係各方面より高い評価をえております。残部がわずかな号もありませんが、ご希望の方には次によりお領けいたしますので、事務局まで頒価、送料をご送金のうえ、お申し込み下さいますようお願い申し上げます。(目録については、ご希望の方にコピーをお送りします)

頒価

会誌 一 号〜十五号 一冊五〇〇円
十六号〜十八号 一冊八〇〇円
十九号 一冊一、〇〇〇円
二十二号〜二十四号・二十六号 一冊一、五〇〇円
二十五号 一冊七〇〇円

送料 一 号〜十九号 一冊二〇〇円、三冊

まで二五〇円、

七冊まで三〇〇円

二十一 号〜二十四号・二十六号 一冊二〇〇円、二冊

二五〇円、四冊まで

三〇〇円

七 号

※ 二十 号 の 残部はありませ

二十一 号 。

会員は一割引です。

送金方法は、会費納入と同じです。

「土幌高原道路」予定地での

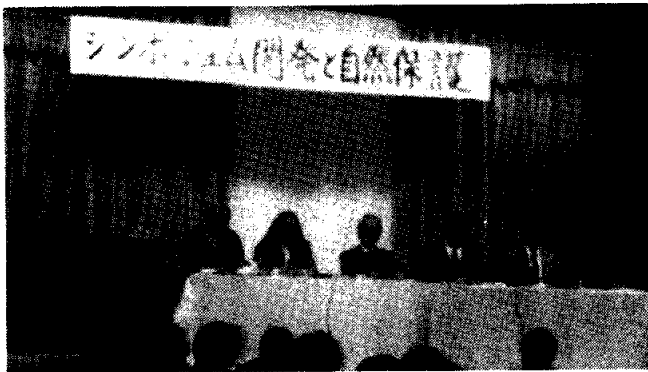
シンポジウムに参加して

当協会常務理事 中野徹三

二月五日、鹿追町の社会福祉会館二階の大講堂で、然別湖の自然を考える会と北海道自然保護連合、そして私達北海道自然保護協会の三者の共催による「シンポジウム・開発と自然保護」が開かれました。

参加者は約九〇名（報道関係者約一〇名）で、二時から六時まで四時間という長時間のシンポジウムにもかかわらず、皆さんが熱心に報告に聞き入り、討論に参加されていた姿は、たいへん印象的でした。北大、酪農大、帯広畜産大の自然保護研究会の学生諸君も十数名、このシンポジウムに参加しています。

前半は、協会の成瀬常務理事が司会となつて、三つの報告が行われました。協会の紺谷常務理事による最初の報告「道路開発と環境保全」は、わが国では、揮発油税などの道路特定財源制度によつて、自動車とガソリンを使えば使うほど、際限なく道路をつくらなければ



ならない仕組みになつており、平地へクタールあたりの道路延長キロは、

一九七五年ですでに九一キロメートル（アメリカの九倍以上、西ドイツの三・五倍以上）に達していること、をわかりやすく説明し、このままですと拡大再生産される「道路建設の永遠化」路線に対して、既存道路の改良と、ガソリン税の一部の公共都市交通機関充実への転用（アメリカでもすでに開始）、大量輸送における鉄道利用の促進などの対策を対置されました。

つぎの報告（観光開発と大雪山国立公園）に立った大雪と石狩の自然を守る会副会長寺島一男さん（本協会理事）は、一九七三年に道開発庁が圧倒的な道内外の世論に押されて申請をとり下げた大雪縦貫道建設設計画が、今年突如再浮上してきた（この案もトンネル開さくを含んでいる）背景に、本年五月に成立した総合保養地域整備法（リゾート法）があることを指摘され、この法がもたらす大きな危険が、さしあた

つて大雪山国立公園に集中していることを、OHPを使って説明されました。最後に報告に立った然別湖の自然を考える会代表の崎野隆一郎さんは、九州出身でありながらこの地の自然に魅せられて定住、然別湖畔温泉ホテルの課長となった人ですが、現地でボウズ山と愛称される東ヌブカウシヌブリが、「東大雪国立公園の自然の凝縮」といってよいほど、貴重な動植物の宝庫であること、鹿追町議会が一九七三年、建設反対を議決した経過などを切々と説明され、「この二・五キロの工事が中断されたため困った人はいない」と、情熱をこめて建設反対を訴えられました。

後半の討論の司会となつた北海道自然保護連合事務局長の田中明子さんは、土幌高原道路は七三年の林自然公園部会長の談話以前に認可されたのでこの談話は適用されないという今年八月の古賀発言の重大性について説明され、シンポジウムは、討論の末この発言について環境庁にきびしく抗議することさらにこのシンポジウムの内容をふまえてこの道路開さくに対して関係当局と全道民によびかける「然別湖からのアピール」を発表することを拍手で採択、閉会いたしました。

（なお、この会場で協会編の「神々の遊ぶ庭」が、一三冊売れました。）

四手井綱英先生の講演と座談会の夕べ

「日本の森林はどうあるべきか」



去る、十月九日夜、札幌市中央区民センターで、京都大学名誉教授の四手井綱英先生を講師として「日本の森林はどうあるべきか」という講演と座談会の夕べを開催いたしました。

四手井先生は、森林生態学専攻のかたわら学生文化団体「探検部」の部長や、京大土山岳会会長をつとめ、現在は日本雪水学会会長の職にあり自然とのかかわりがたいへん深い方であります。

先生のご講演は参加者に深い感銘を与えてくださいました。引き続き行われた座談会も好評でした。

会に参加された一市民の方より、寄稿をいただきましたので紹介いたします。

講演と座談会の夕べに

参加して

高野 定郎

中央区民センターで「日本の森林はどうあるべきか」と言う大きな課題で、十月九日の夕、四手井先生の講演を市民の私が拝聴し、その後の座談会もお聞きした。

私自身が普段考えていた自然保護関

係、森林、自然公園、都市公園など、それぞれの有り方などについて、得るところが多かった。

このような講演会は、もっと回を重ねて、一般市民には協会から、ほんとうに自然保護の必要性を色々の面から平易に説明する会を、野外の適当な場所、また屋内会場でも開催してほしいものである。

四手井先生には今回初めてお会いして、お話を伺ったのであるが、素人の私には、落葉広葉樹図譜などで先生を知り、森林生態などの面から大変興味

を持ち、一度お話を伺いたいとのぞんでいた。

先生の講演は、日本のみでなく、世界の森林を生態学的な立場から、その危機と、保護の必要性について論ぜられたもので興味深く拝聴したものであるが、短時間であり、しかも会場の構造のせいから、音声のよく聞きとれなかったことは非常に残念であった。

自然が一度人工的に破壊されたら、元の姿に回復させることは困難なことは周知の事実である。自然公園などは特に欧米諸国においては他の公園とは特別分離され、丁寧な取扱いをされているようである。また米國などは日本の場合に比較して、お話しにならない位規模も大きいし、保全に対しては行届いた施策が実施されている。私が往年長い間、牧野の仕事で道内の山野を歩き廻り、当時のことを顧りみると、現在の森林、原野の荒廃は特にひどいようである。特に国有林の度合が激しくはないか、また管理の面でも、膨大な機械装備、これに伴う人員などの整備は、施策の上にも果して成果が現われていたであろうか。

特に国有林の伐切は加速度的に進み、全国的にも各地で、伐切反対の煙が立林が無惨にも伐切の浮目に会っている。担当の官庁など、積年の膨大な赤字補填を意味するならば、まことに残念な

ことである。

道内の自然公園も、次第に観光公園化して、往年からみると余りの変ぼう振りに驚くほかなく、知床、野付半島の景観は、五・六年前に訪れたのであるが、二度と訪れる気がしない。

日本人は自然保護意識が発展途上国以下とも評されている。特に最近国立公園となった釧路湿原など、荒廃した公園と得られない。自然、原生的な緑の資源を有するのであるから、これは日本の宝ではないか。

四季を通じて自然を大切に保護する運動はかなり活発になってきたが、まだまだ現在では一般市民の間には、その重要性が浸透していない。国立公園がゴミ捨場の如く汚され、動植物の掠奪の跡などみると、訪れる人々が自然の景観を楽しむと言うより、大方の急速な都市発展に息詰まった人々の物見遊山のな、自然を求めるためのよう、マナーも何もなっていないのである。

これからは国民主体に学校教育の環境として、幼年から大学に到るまで必須の課目としたいものである。

尚、一般市民に対しては北海道自然保護協会が主体となって、あらゆる機会に、一層の御活躍を期待してやまな

六十二年十月二十三日

(札幌市在住)

当協会が広く一般の人々に森林の美しさや大切さを知ってもらうために実施してきている美林ツアー。今年度は去る九月十一日、十三日に道南の美林を中心に実施されました。参加された方々からは、「美林ツアーは好企画」とのお言葉をいただいております。今後も、会員はもとより、一般の方々の多くの参加を期待し、森林への啓蒙と理

解を深めていただきたく願っております。なお、このツアーに一般より参加された会員の大坊幸七氏より、感謝の気持ちにと想い出の記を会にお寄せくださいました。長文にわたるため、紙面の都合上、その一部を次に紹介させていただきます。

道南美林ツアーの想い出

大坊 幸七

美林ツアーに参加するときめてから多少心が浮き浮きしたのは、ちょうど釣りキチが前夜仕掛けをつくる時の気持ちに似ていたかもしれない。

九月十一日の当日、われわれの見送りに八木会長がわざわざ見えられたのには恐縮の限りであった。

今回のツアーには協会の俵先生と理事の福地さんが解説、引率にあたった。札幌市街を過ぎたあたりから先生が用意された資料を全員に配られ、照葉樹林文化とそれに対するブナ林文化をわかりやすく話しされたのは大変好評であった。

歌才ブナ林
出迎えてくれた黒松内営林署の方に案内された歌才ブナ林は、第三紀黒松内層を基岩とする高さ約八十mの山でシダ類をはじめ草木本は九十七種類におよんでいるが、季節外で色とりどりの

花こそなかったが、樹齢三百年といわれるブナはさすがに仰ぎ見る巨木であった。七飯ではガルトネルブナ林、アカマツ並木を、ベテランのガイドさんの説明を聞きながら通過したが、車中から見るアカマツ並木は、大名の列を配すると立派な絵になると感じた。ヒバの純林
厚沢部町森林展示館は、静かな山あいにあった。前庭のシラカンバの樹は昼の太陽にきらめいていた。バスを降り展示館に入ったが、この展示館は総ヒバ丸太造りで「和風山小屋」でよく周りの自然と調和した建物である。

材特有の芳香はあたりの空気を殺菌し、清浄化しているように思われた。土橋自然観察教育林の入り口は、展示館前の広場を挟んだ向かい側で、

山営林署の管理者お二人の案内で入山した。この教育林は、青少年の自然科学の野外教室として利用されている国有林である。

この地はヒノキアスナロ(ヒバ)の北限、トドマツの南限でもある。教育林には道南の木の八十%が見られるという。ASA400のフィルムでも手ぶれを起こしそうなうっ蒼とした林である。

踏みしめる山道の感触は、ふかふかと感じた。案内者は、さらにわれわれを江差町の砂坂海岸林へと案内してくれた。

小高い丘にある白塗りの展望台は狭いため、交替で昇って眺めた。……われ展望する、天と海を……そうして、かつては荒廃砂地で季節風に悩み抜いたこの地は、今や海岸に沿って長さ一・五km、幅〇・五kmの見事なクロマツ林となるを見た。

ここに至るまでには、五十年の飛砂との闘いがあったという。先人の苦勞に対し自然に頭の下がる思いがした。

ツアー最後の小樽自然観察教育林「長橋なえぼの森」を見学したあと、一路高速道路を札幌へと戻す。

この拙文の終わりにあたってこの三日間、俵先生の解説ならびに地方関係者との事前の連絡打ち合わせなど、ま

た理事福地さんのゆき届いたご配慮に感謝を申し上げ、道南美林ツアー「想い出の記」とする。(札幌市在住)

夏・秋の行事の報告

夏休み昆虫教室

(小中学生対象・八月九日西岡水源池)

当日参加七十一名、講師の永盛拓行先生は北海道新聞より「北海道の蝶」を出版されていて、大変面白いな指導をいただく。特に、欲ばった採取をしない事と飼育後の注意を受けました。参加者には「昆虫観察入門」という資料を用意され好評でした。

キノコを見よう

(九月二十七日 野幌森林公園)

講師は「北海道のキノコ」北海タイムス版という本を出されている村田義一先生で、その本を持参の八十一名が参加しました。栗山植物同好会長の伊達先生にも応援を願う。今年のキノコのシーズンは早く始まりましたが五十種以上見つけました。ナラタケ(ポリポリ)が広葉樹の朽ち木について黒いひも状の根状菌束で養分を取る様子などを観察。キノコの森で果たす掃除屋という役割も知りました。

陳情書 要望書 意見書

千歳川放水水路計画の予算要求の中止を求め
る要望書

H N C S 第六八九号

昭和六十二年十一月二十日

大蔵大臣 宮沢喜一 殿

(社) 北海道自然保護協会

会長 八木 健三

副会長 門脇松次郎

千歳川放水水路を考へる会

会長 三浦 二郎

日本科学者会議北海道支部

事務局長 福地 保馬

「千歳川放水水路計画」は水害防止のため
幅四〇〇メートル、長さ四〇キロに及ぶ長
大な放水路を設け、日本海に流入する千歳川を
太平洋に注がせるといふ、わが国でも前例
を見ない大規模な河川改修工事である。

この巨大工事は直接農地を奪われる農業
家に大打撃を与えることは勿論、美々川源
流や野鳥の聖域ウトナイ湖をふくむ生態系
を破壊し、気温の低下、地下水の減少、海
霧の侵入等、自然環境や農業漁業に重大な
影響を与えることが憂慮される。

このため本計画が発表されるや、千歳、
恵庭などの自治体が賛意を表した外は、農
地を奪われる農家からは絶対反対の声が
上がり、広範な自然保護関係の諸団体から
は、反対や再検討を求め意見が相次いで
いる。

さらに本計画がはたして石狩川水系全体
の水害防止に実効があるかという根本につ
いても、重大な疑義が出され、これに代わ
るべき各種の代替案も提言されるにいたつ
た。しかるに北海道開発庁はこれらの批判

や提言を「素人の思いつき」と一蹴し、真
剣な検討を行っていない。また昭和六〇、
六一年度施行された環境影響調査結果の公
開を求める声を黙殺し、いまにいたるも資
料の公表を拒んでいる。

このように地元関係各方面との充分な話
し合い、討論を行うこともなく、一路既定
方針を押しつける硬直した姿勢に対しては、
たとえば別添資料に見るように広汎な範囲
から強い不信が寄せられている。流路変更
により新たに影響をこうむる苫小牧市議会
は開発庁に対し予算要求の停止、早来町議
会は反対の議決を行い、北海道知事も「調
査資料の公開と話し合いが肝要」と慎重な
姿勢を明らかにするにいたつた。さらに各
新聞はこぞって強断強行の姿勢を批判し、
調査資料の公開、関係者との話し合いなど、
慎重な態度をとるべきことを強く要望して
いる。

しかるに北海道開発庁はこれらの広汎な
世論に慎重な考慮を払うことなく、ただひ
たすらに昭和六三年度着工を目指し、八億
円の予算要求を行つた。

大蔵省におかれては、以上の事情をこ
察の上、当該予算を中止せられるようこ
に強く要望する。

道道士幌・然別湖線の工事停止を求め
る自然保護三団体連合の要請
北自連八七―一三
一九八七年十月十六日

北海道知事 横路孝弘 殿
北海道自然保護連合
代表 瀬川 潔

(社) 北海道自然保護協会
会長 八木 健三
代表 崎野隆一郎

然別湖の自然を考へる会
代表 崎野隆一郎

大雪山国立公園の南端山岳部を通過する
道道士幌・然別湖線が国民共有の貴重な自
然を破壊するため、その工事停止を求める

要請は(社)北海道自然保護協会がさる七
月十四日北海道知事および士幌町長に対し、
さらに九月二十四日には北海道自然保護連
合(社)北海道自然保護協会、然別湖の自
然を考へる会の三団体が共同で北海道帯広
土木現業所長に対し提出している。しかる
に道当局は同道の工事中止後十五年をへた
現在にして工事を再開し同道を開通させる
方針を変えていない。

いまでも同道の通過する大雪山国立
公園の南端ヌブカウヌブ山および天
望山一帯は貴重な原生的自然が豊かに残さ
れたところであり、たとえばコマクサなど
高山植物の群落が多数分布し、これらの植
物相を土台として氷河期に渡来したナキウ
サギが大雪山系中もともと多く生息してい
るところである。地球規模で環境破壊が
進む現在、このような自然は北海道民のみ
ならず全国民共有の財産というべきもので
あり、手厚く保全して後代に伝えるべきで
ある。

この一方、現在は十勝平野から然別湖に
いたる道路は整備されており、道道士幌・
然別湖線が開通したとしても士幌町から然
別湖にいたる既存道路との距離差は一〇・
二キロにすぎない。これからみても、この
道路は道民および地域住民の産業的・社会
的の必要に答えるものではなく、単に夏季
間の観光に用いることが期待せられている
にすぎないことは明らかである。また仮に
同道が開通したとしても単に通過型観光に
利用される可能性がきわめて大きい。むし
ろ同道の建設を要求した士幌町は今後、大
雪山系の貴重な自然を善用した滞在型観光
の開発に力を注ぐべきである。

すでに国の自然環境保全審議会は昭和四
八年、道開発局が計画した大雪山国立公園
の中央部を通る開発道道忠別・清水線、い
わゆる大雪縦貫道の建設について審議し
た際、林修三自然公園会長の意見書とし
て①国立公園等における道路新設は、そ
の道路が社会的にぜひ必要であつて他に

わる手段がない場合にのみ認められなけれ
ばならない。②その場合でも自然の大きな
破壊を誘発するおそれのある地域は避けな
ければならないとの見解を明確に示した。
これは自然公園等における道路建設につい
ての国民の考えを代弁したというべきもの
であり、諸外国では厳守されているところ
である。

近辺に既存の道路敷本を有する大雪山国
立公園南部において、あまつさえ諸市民の
反対で十五年前に工事が中止された道道士
幌・然別湖線の工事が再開させ開通させる
がごとき行為は、この国民的要請に全く
反しており、もし実行されるなら、その実
行者は後代にまでその責を負うべき性質の
ものである。

以上の諸理由から国民の共同的業務を委
任せられている関係各位におかれては同道
の工事を停止するのはもとより、同道の認
定を取り消し、すでに荒廃させられた国立
公園内着工部分の自然復元を実行されるこ
とを要請する。

事務局員異動のお知らせ

この度事務局の坂井豊氏が一身
上のご都合により退職され、その
後任として高橋武雄氏が就任され
ました。ここにそのご紹介をいた
します。

高橋氏は東京の生まれで、昭和
十六年東京都立第二商業学校を卒
業し、当時の満鉄(南満洲鉄道株
式会社)に勤務しました。その後
応召となり、復員後しばらく北海
道軍政本部に勤務しました。昭和
二十七年札幌地方裁判所に入り、
二十余年に亘つて主として会計事
務を担当。さらに函館及び札幌検
察審査会に勤務され、昭和五十九
年に退官されました。



このように永年の裁判所勤務が
示すように誠実で温厚な人柄、事
務方面に明るく、協会事務を立派
に処理されるでしょう。

趣味は釣で、休日には石狩川付
近での釣を楽しむとともに、お宅
の庭にバードテーブルをおくナチ
ユラリストでもあります。



寄贈 図書

〔書名・編著者・発行所・寄贈〕

〔敬称略〕

- 『東京に生きている野生動物たち』(ひさだまきを)らくだ出版Ⅱ寄贈・同上
- 『海のもたちゼニガタアザラシ』(ゼニガタアザラシ研究グループ)らくだ出版Ⅱ寄贈・同上
- 『ゼニガタアザラシの生態と保護』(和田一雄ほか編)東海大学出版会Ⅱ寄贈・同上
- 『自然保護の十年』エルザ自然保護の会Ⅱ寄贈・同上
- 『白い鳥―ハクチョウとともに40年―大森常三郎著作集』(日本白鳥の会編)野生生物情報センターⅡ寄贈・日本白鳥の会
- 『北海道主要樹木図譜』(宮部金吾・工藤祐舜)北大図書刊行会Ⅱ寄贈・同上
- 『白いオビラメ―原野の釣人物語』(佐々木栄松)青弓社Ⅱ寄贈・著者
- 『北海道における鳥類標識調査』樽前自然教育研究所Ⅱ寄贈・同上
- 『理科教育指導資料第19集―人間と自然』北海道立理科教育センターⅡ寄贈・同上
- 『野生動物分布等実態調査報告書―ヒグマ生態等調査報告書―』道生活環境部自然保護課Ⅱ寄贈・同上
- 『野生動物分布等実態調査報告書―エゾシカ生態等調査報告書―』道生活環境部自然保護課Ⅱ寄贈・同上
- 『野生生物分布等実態調査報告書―キタキツネアンケート調査報告書―』道生活環境部自然保護課Ⅱ寄贈・同上
- 『日本・中国植物名比較対照目録』(増淵法之)北大理学部Ⅱ寄贈・著者
- 『日本・中国植物名比較対照目録』(増淵法之)北大理学部Ⅱ寄贈・著者
- 『身近な環境を重視した学習指導―校地とその周辺の動植物の教材化―』札幌清田高校、勝見謙次・永森拓行・三澤英一Ⅱ寄贈・三澤英一

- 『校地周辺のヤナギの教材化―ヤナギ類の侵入と種子散布に関する研究―』三澤英一Ⅱ寄贈・著者
- 『タンポポの生態と環境条件』札幌清田高校生物部Ⅱ寄贈・三澤英一
- 『遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書』環境庁自然保護局Ⅱ寄贈・同上
- 『北海道における道路計画と森林環境の保全に関する調査研究』北大農学部演習林研究報告Ⅱ寄贈・石城謙吉
- 『兵庫の自然観察ガイド』兵庫県自然教室編者Ⅱ寄贈・同上
- 『北海道環境白書'86』北海道Ⅱ寄贈・同上
- 『北海道自然の話』科学教育協議会北海道ブロック編者Ⅱ寄贈・八木健三
- 『北海道緑の環境づくり』社団法人北海道国土緑化推進委員会Ⅱ寄贈・八木健三
- 『クマガエラ』野幌森林公園を守る会Ⅱ寄贈・同上

- 『知床博物館研究報告第8集』斜里町立知床博物館Ⅱ寄贈・同上
- 『斜里平野のおいたち』斜里町立知床博物館Ⅱ寄贈・同上
- 『地名探訪しやり―郷土学習シリーズ第8集』斜里町立知床博物館Ⅱ寄贈・同上
- 『アイヌ文化・草と木樹―郷土学習シリーズ第9集』斜里町立知床博物館Ⅱ寄贈・同上
- 『穂別町立博物館研究報告第4号』穂別町立博物館Ⅱ寄贈・同上
- 『穂別町立博物館報告第4号』穂別町立博物館Ⅱ寄贈・同上
- 『釧路湿原国立公園』釧路湿原国立公園指定記念事業実行委員会Ⅱ寄贈・同上
- 『カムイミントラ』合本 りんゆう観光Ⅱ寄贈・同上
- 『山河崩壊』1号 河川湖沼と海を守る全国会議Ⅱ寄贈・同上
- ☆ ありがとうございます。ございました。

自然事典 15

林床植物

辻井 達一 (北大植物園長)

森林の上部を林冠(りんかん)と言うのに対して、地上の部分を林床(りんしょう)と呼ぶ。林床を形成するのが林床植物で、木もあり草もあるが一般にはどちらかというと日陰にも強い種類が多い。森林の種類によって、あるいは場所によって特徴ある林床群落が発達する。ササ類もその代表的なものだが、シダ類、コケ類なども針葉樹林ではよく登場する。これらの植物は一般に小さく、或るものはむしろ弱々しく見えさす。林床植物は概して日陰に耐える性質を持つことから、緑地や公園などの木陰の地被植物(グラウンドカバー)に用いられるものも出てきた。フッキソウもその一つで最初アメリカで採用され、日本でもこの頃は広く使われるようになった。



Pachyandra chinensis
フッキソウ
May 5 '87

NCニュース



(会場記載のないものは
事務所で実施・敬称略)

五、十二月五日帯広でのシンポジウムの件

昭和六十二年十一月十八日(水)第十四回常務理事会(拡大)

主な議題

一、協会発行の出版物の件

昭和六十二年十二月二日(水)第十五回常務理事会

主な議題

一、一般道道士幌然別湖線自然環境調査報告書の件

昭和六十二年九月二十五日(金)第十一回常務理事会(拡大)

主な議題

一、八月分決算報告

二、道道士幌然別湖線の件

三、千歳川放水路の件

四、大雪縦貫道の件

昭和六十二年十月二十三日(金)第十二回常務理事会

主な議題

一、九月分決算報告

二、道道士幌然別湖線建設計画の件

三、千歳川放水路の件

四、大雪縦貫道の件

昭和六十二年十一月十日(火)第十三回常務理事会

主な議題

一、十月分決算報告

二、事務局体制の件

三、会誌発行の問題の件

四、千歳川放水路の問題の件

行事のご案内

「森と文化」

講演会の御案内

日時 二月二十日(土)午後一時～五時
場所 札幌市婦人文化センター
札幌市中央区大通西十九丁目

旭川・嵐山でのミニサンクチュアリづくりを通しての森とのかかわり、又最近の中国の自然保護事情等、三人のお話を通して、改めて森と人間のかかわりを考えてみませんか。

講師

石城謙吉(北大苫小牧演習林長)

出羽 寛(旭川大学助教授/嵐山ビクターセンター設立委員)

近藤憲久(根室市教育委員会学芸員)

冬芽と動物の足跡

ウォッチング

寒さの中、樹木の新芽はどんな冬ごもりをしたり、春の準備をしているのでしょうか。又雪の時期だからわかる、足跡による動物の生活を一日ウォッチングしてみませんか。

日時 三月六日(日)午前十時～午後一時

場所 西岡水源池

(水源池事務所前集合)

講師 北大農学部大学院生他

会費 一般 三〇〇円、一家族(二名以上、五〇〇円) 当協会員

：無料

参加される方は当協会に早めに連絡ください。(☎25115465)

寄付金

金十五万円・片岡秀郎様、金二万円・加藤明様、金五万円・坂井豊様、金二万円・波岡茂郎様、金一万円・八木俊介様 ありがとうございます。

原稿募集

会員の皆さんの原稿をお寄せ下さい。身近な自然の歳時記や観察記録、自然保護に関する事、当協会に対する意見でも結構です。

原稿は八〇〇字前後でお願いします。(長いものは、カットしますのでご了承ください)。

写真やイラストも大歓迎です。ハガキでも結構です。お気軽に事務局へお寄せ下さい。

昭和六十二年十一月五日発行
〒060 札幌市中央区北一西七広井ビル五階
発行所 法人北海道自然保護協会
電話(011)251-5465
郵便振替口座小樽 一四〇五五
北海道拓殖銀行本店 〇一七二五九
北海道銀行本店 一〇一四四四
発行人 八木健三
印刷 広報社印刷株式会社